

お取引様 各位

お客様アンケートご報告

拝啓

貴社ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。
毎々格別のお引き立てを賜り、ありがとうございます厚くお礼申し上げます。

さて、この度はご多忙の中、弊社業務に関するアンケート調査にお応えいただき、ありがとうございます。

2月分アンケート調査の結果について集計致しましたので、ご意見の一部をご紹介致します。

■ご意見①■

「コーティング剤を食べたゴキブリの死骸はどうなりますか？」

ゴキブリがコーティング剤を食べると、一般的に脱水症状を起こします。

そのため水を求めて排水溝・排水槽などで死んでいきますので、フロアーやお客様の目に付くところで死ぬことはほとんどありません。

■ご意見②■

「剥がれ落ちたFCCコーティング剤はどうやって処理すればいいですか？」

FCCコーティング剤は天然有機物から出来ておりますので、燃えるごみとして処分して頂いて問題ありません。また、施工時にFCCコーティング剤は何百箇所に亘って塗布しておりますので、駆除効果には影響ございませんのでご安心下さい。

■ご意見③■

「施工後、再発防止の為にこちらで日々出来ることなどはありますか？」

清掃・整理が何より大切になってきます。
普段から気を使われているかとは思いますが、ゴキブリの生息しやすい場所を無くすという意味で、引き出しの整理や搬入物の置き場所をこまめに変える、1年経っても使用しないものは処分する事をオススメします。

一部でございますが以上の様なご意見・ご指摘をいただきました、ご意見・ご指摘は全て真摯に受け止め改善してまいります。

どうぞこれからも、忌憚のないご指導・ご鞭撻を賜ります様、よろしくお願ひ申し上げます。

また引き続き、皆様からいただいたご意見等をご紹介してまいりますので、重ねてよろしくお願ひ致します。

敬具

昨年2月よりアンケート調査を毎月行っております。
引き続きご協力いただければと存じております。

アンケート専用FAXのフリーダイヤルを設置しておりますので、こちらもご利用くださいませ。

お客様アンケート
お問い合わせ専門FAXフリーダイヤル
見ないムシ

0120-32-3164

※一都八県以外はご利用出来ません。
(東京・神奈川・千葉・埼玉・栃木・茨城・群馬・山梨・静岡)

FCC News

2016年3月号 No.143



Index

お客様アンケートご報告

社長コラム & 社員コラム

季節のムシ暦(99)

生活の豆知識

FCC商品紹介

株式会社 FCC



〒251-0043
神奈川県藤沢市辻堂元町4-3-32
Tel 0466-31-3164
Fax 0466-31-3174
URL <http://www.fccsystem.co.jp>
E-mail info@fccsystem.co.jp

社長コラム

湘南ではたらく小さな会社の社長のblogより

節目の行事

1月22日金曜日、午前中が株式会社るるカンパニー第5期、午後が株式会社FCC第19期の経営指針発表会でした。



細かい事を除けば、とても素晴らしい発表会でした。るるカンパニーは、来期全ての助成金が無くなりまます。FCCでは、大幅に体制が変わりました。ここが過渡期です。勝負になります。



海がキラキラしています。
24日、25日は社員旅行でした。
今年は伊豆長岡で宿泊しました。



ワイナリーにて。

宴会前に私は、旅館の隣の源氏山に走って登り1時間のトレーニングです。
その後の宴会はとても楽しかったです



2日目は並山反射炉です。
世界遺産です。
快晴です。
富士と反射炉。感謝です。
発表会や社員旅行を通して感じたことは、とても良い会社になつたなあ~、と言うこと。
みんなとも仲が良い楽しい会社になりました。
チームワークも万全です。
嬉しいです。
彼らを信じて19期に臨みたいと思います。



パソコンからFCCブログをチェック!!

FCCニュースに掲載しているブログ記事以外にもFCCホームページには多くのブログがあり、業務の事や日常の出来事など様々なエントリーが投稿されています。

気になった方は

ゴキブリ駆除 FCC

検索

トップページから全てのブログにアクセスする事が出来ます。

FCC社員コラム

まっちゃん Blog

FOOD TABLE in JAPAN 2016



2月10日から12日まで、東京ピックサイトでFOOD TABLE in JAPAN 2016が開催されました。
FCCも営業部メンバーで「外食 FOOD TABLE 2016」へ出展しておりました。

弊社ブースにお立ち寄りいただいた皆さん、誠にありがとうございました。

またお取引いただいているお客様には、1月のFCCニュースと合わせ招待券をお送りさせていただきました。
チケットの追加やお問い合わせをいただきありがとうございました。

今回、展示会2日目が祝日にあたるということで、展示会を見に行かせていただきました。

以前、出展者側で一度参加させていただいた事がありましたが、どのような形で営業部の皆さんか展示会を行っているのかが分かり、勉強になりました。

今回は出展側ではなかったので、いろいろと他のブースを見させていただきました。ピックサイトの中はかなり広く、訳あって西館・東館を行ったり来たり何往復もしたので、次の日まで足が筋肉痛でした。

ここでもまた普段いかに動いていないかがバレマス(笑)ともあれ、今後に必要な情報も集められ、とても良かったです。

営業部の皆さん、3日間お疲れ様でした。

虫とは、人にとって何なのか

私達は、食物に「ムシ」が入っていると「異物混入」として、大騒ぎをするが、世の中には、もっと凄い事のあるのには、ピックリした。

なんと、[廃棄物のカツ]が、堂々と店頭に並んだのだ。これに比較すれば、異物の虫など可愛いものだ。

しかし、人は、虫を退治する。それは何故なのだろうか？虫の姿を見ない冬場に、今一度、考えてみよう。

では、虫とは何だろうか。実は、地球という「惑星」に登場したのは、「虫」は人よりも先なのである。つまり、この地球では、人よりも先住民なのだ。

また、その生息数は、人よりも格段に勝り、世界の動物の4分の3が虫で占められているのだ。

それに、その種類は、90万種を下らないと云うすごさである。

では、この虫は、何時の時代に、この地球上に姿を見せたのだろうか。また、虫の原点は、どうも水中の甲殻類と称する「エビ」や「カニ」の仲間の生物が、身体の部分の一つである付属肢という構造物を脚(アシ)や翅(ハネ)に変化させて、「トンボ」と云う姿になって空を飛ぶようになってからだと云う。それは、今からなんと5億年も前の事のようである。

これに比較すると人間は、ずっと後世である。人間の祖は、チンパンジーの祖から独立してから「原人」や「旧人」などの時代を経て、[新人]の誕生までに、およそ10万年を要した。それにしても、人類の地球上への登場は、「虫」よりもはるかに後世なのである。

たかが「虫」と云うが、虫には、この様なヒストリーがあるので。

こんな虫達を私達は、どのように認識し、どんな接し方をしているのだろうか、考えてみたい。

しかし、その接し方は、その人達の生活の場の状況によって、大きく異なるようだ。同じ虫であっても、その人の生活の場が、農山村部なのか、都市部なのか、あるいは生産活動の場なのかで、その受け取り方は、かなり違うはずである。

一般的な判断基準は、人にとっての利害関係にあって、強いて整理するとおおよそ、次のように類別する事が出来る。

イ、人に利益をもたらす虫、益虫。

ロ、人に損害をもたらす虫、害虫

ハ、人に対して、直接的な利害関係がない虫、ただの虫。

人は、おおむね、以上のように分けて接しているのではないだろうか。しかし、厄介なのは、益虫と考えられている虫も、その成長の過程で性状、異なる事である。

例えば、蝶などは、成虫の姿が大変うつくしいが、その幼虫は野菜などを喰い荒し、大害虫なのである。こんな所が、虫の面白い点だが、油断のならない相手なのである。たかが虫、されど虫、と云う所である。

では、しばしば問題になる「虫」とは、どんな類(タガイ)なのか、生活の場から探して見よう。

まず、人に利益をもたらす益虫。

多くの人は、[益虫]の例を上げると云われると即座に答えられない。少し、間を置いて思いつくのが、蜂蜜を産する「ミツバチ」と緑を産する「カイコ」かもしれない。この他、薬用に供する虫も思いつくかもしれないが、その生活史などには、思い至らないだろう。

人に損害をもたらす害虫。

私達の日常生活の場で、悪い虫を探し出すのは、益虫を探すよりも、はるかに容易かもしれない。

食品売場で、虫に喰われた野菜を眼にすれば、農業害虫の「アオムシ」を思いつくだろう。しかし、これが、春の山野に舞う白くて、美しい「モンシロチョウ」の子供だと気付かないかもしれない。

また、野外活動などで、刺されたり、咬れたりする「カ」や「アブ」、「ハチ」などは、かなり身近な存在である。それに、虫由来の病気には、マラリア、日本脳炎、フィラリア症、デング熱などが思いうかべられる。

面白い事に、一時、日常生活の場で姿を消し、忘れられていたノミ、シラミ、ナンキンムシなどが、ここに至って復活し、話題をまいっている。これは、どうやら国際化がもたらした所産のようだが、どうにも油断の出来ない虫達ではある。

正しくは「虫」では無いが、今、「ダニ騒動」が勃発し、話題になっている。近代の科学大国で、全国各地にマダニによる死者が出ている。

何故、今頃になってと不思議な事だ。ただし、ダニの恐ろしさは、昔から「恙虫(ツツガムシ)病」があって、旅人の心配の種子であった。

これは、或る時期から忘れていたが、近年、復活して問題になっている。どうも、農業技術の変化が、背景にあるらしい。

人を刺したり、咬んだりする事の無い虫達も、群れを成して「異常多発」すると大騒動になる。こんな例には、ただのハエが、東京都の「夢の島のハエ騒動」で、世間の注目をあびた。これは、人が「ゴミ」を造り出したから起った人災である。

数々の虫問題を眺めると、その原因は人の側にある事が少くない。虫問題は、人が自分のわがままを押し通している中で起っている気がしてならない。

人は、もう一度、虫を見直す必要がありそうだ。此の冬場、虫とは何かを考えたい。

何年か後には、「東京オリンピック」が予定されている。生活環境が、かなり変化する事は間違いない。今から「虫問題」を考えて置きたい。地球温暖化は、想定外の事をもたらす可能性が大きいのだ。

この事を忘れずに、地道な虫対策を考えよう。

生活の豆知識

ジカ熱について

昨年、私たちの生活を脅かしたデング熱を覚えていたでしょうか？今年はなんと、ジカ熱が人類に猛威を振るっています。テレビや新聞で見かけない日は無いですよね。

ブラジルを中心に拡大しているジカ熱。蚊を媒介し、ウイルスによって感染します。特に妊婦さんにとっては我が子と小頭症が身近な関係にあり、恐怖要因となっています。

しかし実際に起きているのは南米で、自分たちに関係ない、よく分からぬと思っている方々も多いのではないでしょうか？

今回は、世間を賑わせているジカ熱について知識を深めたいと思います。

ジカウイルスは1947年にジカ森林にて発見されました。2015年にはブラジル、そしてコロンビアを含む南アメリカ大陸で流行が発生しました。

ジカウイルスはデングウイルスと同じ種類のウイルスです。ネッタイシマカやヒトスジシマカなどが媒介蚊として確認されています。

日本にはヒトスジシマカが生息しているので要注意です。実際、過去にはフランス領ポリネシアから日本への輸入症例があります。

2016年夏季にはブラジルでオリンピックが開催され、日本に入ってくる可能性は多大です。

潜伏期間は3日～12日です。発熱・斑状丘疹性発疹・関節痛・関節炎・結膜充血・筋肉痛・頭痛・めまい・下痢・腹痛・嘔吐・便秘・食欲不振などをきたす場合があります。

また妊婦がジカウイルスに感染することで羊水を通じて胎児にも感染し、小頭症児が産まれてきてしまう可能性もあります。

症状自体はデング熱と比べると軽症で、通常は4～7日間持続します。治療に関しては、痛みや発熱に対しては解熱鎮痛剤を投与する程度ですが、脱水症状がみられる場合は輸液も実施します。

予防策は日中に蚊に刺されないことが最も重要であり、長袖・長ズボンの着用、昆虫忌避剤（特にDEETを含むものは高い効果がみられます）の使用などがあります。ただし妊娠の可能性がある女性はジカ熱が流行している地域への渡航は避けましょう。



ゴキブリの語源

ゴキブリという名前の語源は、なんでも食べてしまう彼らの習性から由来しています。ゴキブリは雑食性で、塩以外であれば食べると言われています。また、水1滴あれば数週間は生き伸びるほど生命力の持ち主です。

ゴキブリの語源

ゴキ：御器＝食器
ブリ：かぶる＝かじる

ということは！！！
名前を見て分かるように、食器でさえも食べてしまう虫ということですね。明治時代まではゴキブリと呼ばれていたらしいのです。
なんとも面白いです。

食材をしまっていれば大丈夫だと思っているそのあなた！ゴキブリは油汚れや、水回りのぬめり汚れ、ありとあらゆるものをして生きています。これからも徹底して、ゴキブリのいない環境を創りあげていきましょう！

FCC取扱い商品紹介

飛来昆虫捕獲器

FCC®ムシポン ポケット2

1台29,268円(税込)



インテリアタイプの飛来昆虫捕獲器です。

ワンタッチで簡単に設置出来る上に、店内の美観を損ねないデザインとなっているので、お客様の目に触れる客席や店内などでもご利用頂けます。

虫が好む光で誘引し、専用の捕虫紙でどんな小さな虫でもしっかりと捕獲するので、電撃捕殺タイプの様にバチバチという音がしたり、虫の死骸が飛び散ったりする心配は一切ございません。

FCCオリジナルエコ商品の販売や、衛生に関する店長ブログなどもあります！

気になった方は

衛生用品.com

検索